

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2017~2018年度 No.218

3月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界



強調月間：BF
メネット



2月 (CS公開講演会) 例会 2月23日(金)

2017~2018年度 主題
 国際会長：(IP) Henry J Grindheim (ノールウェイ)
 「ともに、光の中を歩もう」
 アジア地域会長：(AP) Tung Ming Hsiao (台湾)
 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事：(RD) 栗本 治郎 (熱海)
 「広げよう ワイズの仲間」
 北東部長：鈴木 伊知郎 (宇都宮東)
 「距離に負けるな北東部、各クラブの個性を磨きましょう」

クラブ役員 事務局
 会長：田村 修也
 副会長：村田 榮
 河野 順子
 書記：内海 研治
 会計：村田・鈴木
 担当主事：内海 研治
 ブリテン：田村・村田

2月例会データ(出席率：83.3%)
 在籍者 6名
 例会出席者 5名 メネット 2名
 ゲスト：32名

今月の聖句
 キリストはあなたの方のために苦しみを受け、その足跡に続くようと、模範を残されました。

ペトロの手紙一 2章 21節

3月 Happy Birthday
 3/13 田村 修也メン

巻 頭 言

原田 時近

この冬は例年になく荒れ模様で厳しい。まず寒い、そして日本海側、特に北陸地方の大雪だ。テレビを観る現地の状況は深刻である。雪掻き、屋根の雪下ろし、道路の除雪作業等々、数メートルにも及ぶ積雪は個人の力では対応も困難、まして高齢化社会、“助”の組織化が必要と思う。

この中、韓国平昌オリンピックが開催されている。平昌は、これまでの日本の札幌・長野オリンピックの比ではない程の寒さと強風の中、見ごたえのある熱戦が繰り広げられており、つつい寝不足の日が続いてしまった。

オリンピック度に感じるのは、一つは、アスリートの若年化。折しも棋士藤井聡太五段が朝日杯将棋オープン戦で羽生善治竜王を下し、広瀬八段に勝って優勝し、僅か16日で六段に昇格する快挙を果たした。後のインタビューで謙虚な姿勢に、いつもながら日本の将来に希望が持て嬉しくなる。一方で個人的にはレジェンドと言われ45歳になってスキージャンプで頑張っている葛西選手には、つい応援にも祈る思いもあり熱が入る。二つには、テレビ等インタビューでの応答の巧みさ。パフォーマンスも自信に満ちている。この中で多くの選手から“感謝”という言葉が聞けることができたことも良かった。

私共ワイズもYMCAの〈スローガン〉みつかる。つながる。よくなっていく。…の下、一人ひとりがワイズにあって自分の使命を点検し、希望をもってすべての繋がっていく隣人に感謝の心で接していきたいものです。

2月（CS公開講演会）例会

内海 研治



日時：2月23日（金）18：00～20：00

場所：日本キリスト教団西那須野教会1階ホール

参加者：田村、河野、村田、原田、内海の各メン。メネッ

ト：田村、原田。孫ネット：河野、リーダー：もっちゃん、ゲスト：大下牧師夫妻、久世夫妻、赤坂夫妻、菊池栄三、塩澤総主事、0287会（氏家夫妻、大森夫妻、山代夫妻）、やまびこ会（石川夫妻、塩谷、梅田、高松、長谷川夫妻）、田村親族（田村廣孝夫妻、深谷憲一夫妻、菊池保夫）、歌う会（須藤輝一、安在、広井（安

在さん同級生）、幼稚園園児関係（吉田姉（元有澤医院勤務））合計：39名

2月の例会は、河野メン（前栃木県看護師会会長）にご講演いただきました。参加者は39名と大盛況、たくさんお越しいただきありがとうございました。講演の主題は「可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで」です。超高齢化時代を元気に生き抜くにはどうしたらよいのだろうか、自分は現在どのような現状を生きているのだろうか、などについてお話いただきました。

高齢に伴う「虚弱化」に対して根本的に治すことは困難ではありますが、上手に付き合っていくことが大切であると学びました。この虚弱化に着目した推進項目として、栄養・身体活動・社会参加の3つが挙げられ、今回は「栄養」について詳しくご説明いただきました。食事においては、主食・副菜・主菜・牛乳乳製品・果物をバランスよく摂取することが大事ですが、特に主菜・副菜をしっかりと食べ、そのあとに主食を食べるとよいというアドバイスをいただきました。70歳以上の食事摂取量の目安は子どもの6～9歳と同等量になるそうです。主菜・副菜の例として、なっとう・牛乳乳製品は夜食すると効果的とのことでした。河野メンの実体験として、「主菜をしっかりと食べる」という食生活に変えたことで、ホッカイロいらずの生活になったとのことのお話もありました。



また、口腔内の管理の大切さについてもご説明いただきました。口腔機能の衰えは肺炎の原因へと繋がることもあり、普段から、よく噛むこと、きれいにしておくことを心がけることが大切です。その中で、唾液量を増やすことも大事ですが、唾液を促すツボを押すことや昆布を噛むこと、「ば・た・か・ら」と発音するなど、実践編も教えていただきました。

最後に「高齢者と薬」についてもお話がありました。虚弱は薬では治らないため、しっかりと噛んで、しっかりと食べ、しっかりと歩き、そしてしっかりと社会性を持つこと、つまり自助（自分で自分を助けること）が重要であると感じました。次回講演も予定しております。

す。ぜひお越しく下さい。

今後の予定

・ 3月特別例会

日時：3月10日（土）午前10時～

場所：西那須野幼稚園

内容：凧あげ会（東日本大震災を覚えて）

・ 3月例会

日時：3月30日（金）午後6時から

場所：日本キリスト教団西那須野教会

内容：ユースリーダー活動報告会

【出合いと体験森へリーダーズキャンプ】

稲川 聖也（とと）

【2017年度Yキッズについて】

照沼 歩莉（みるき）、佐々木 麻佑（のんちゃん）

【2017年度赤城プレキャンプ】

大橋 理乃（さわー）

【スキーキャンプについて】

濱田 愛衣（ぼわ）、橋本 裕翼（もっちゃん）

会費：500円

・ 4月役員会（第2例会）

日時：4月6日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：3月例会（ユースリーダーによる報告会）、4月例会（植樹例会）、4月号ブリテンの発行等。

・ 4月第1例会（植樹例会）

日時：4月28日（土）午前10時

場所：那須街道赤松美林駐車場

内容：植樹・那須疎水の散策

3月第2例会（役員会）報告

日時：2月26日（月）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、村田副会長、内海書記、田村メネット、荒井主事

協議事項

1. 2月（CS公開講演会）例会についての反省
多くの方々に参加をいただき、自分たちにフィットした良い会であった。講演内容は、別途特集号を作成。食事付きで実施しなくてもよいように思う。時間の設定も必要だ（土曜の昼から行う）。

2. 3月例会について

ユースリーダーによる活動報告会（発表者5名）。リーダーの参加を促すために日程を変更する。日時：3月30日（金）午後6時から。場所、西那須野教会1階ホール。夕食（カレー）リーダーにお願いする。お米、ジャガイモは村田が準備。会費：500円

3. 4月例会について

春の植樹例会、4月28日（土）那須街道赤松林。

4. 4月ブリテン発行について

いつも通り早い目をお願いする。

5. 4月役員会（第2例会）の開催日について

4月6日（金）午後6時30分～、ココス西那須野乃木店。クラブ会則について検討する。

6. その他

・ 3月の特別例会は、3月10日（土）凧揚げ。

・ 次回のシイタケ昆布は、3月例会時に購入する。

・ 内海担当主事がとちぎYMCAを3月末に退職する。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第59回）

会長 田村修也

11月11日になって、印南さんと矢板さんは、5度目の上京を行い、12月28日（今で言えば公官庁の御用納）に帰郷するまで、政府高官等に猛烈な陳情を転かいました。その主な人物は、伊藤博文、松方正義、山県有朋、西郷従道、佐々木高行、品川弥二郎、土方久元、吉井友実、岩崎久弥、三島通庸、三条実美、大久保利和、鍋島幹、金井之恭、河田景与、渡辺國武、田中芳男、岩山敬義といった人達でした。

公的な立場からすれば、印南さんは栃木県第三大区八小地区区長で、栃木県勸業課付属、矢板さんは第三大区三小地区区長で、栃木県勸業課付属という、数ある地方の一農村指導者に過ぎないのに、このような政府・財界のトップレベルに、直接陳情出来るということは、どのような人脈を持っていたのか驚くばかりです。明治の初期はそのような時代だったのでしょうか。

改めて陳情先の人物の明治18年4月現在の肩書を見て見ますと、伊藤博文は宮内卿・公爵、烏が森丘上で疏水開鑿詳細を実地見聞した当時は内務卿、総理大臣4回。松方正義は大蔵卿・公爵、疏水開鑿・開墾については開墾社創立以前から別格の心情で努力された、後に開墾社の有力株主、千本松農場（現蓬萊牧場）の創始者、敷地内に洋館の別邸があります。山県有朋は初代伊藤内閣時の内務卿・公爵、後、組閣2回、元老、現矢板市内山県農場、広大な山林経営（山林は農地解放の対象になりませんでした。農場内に移築した旧古稀庵あります。山県記念館として公開）。

西郷従道は農商務・侯爵、当時農商務省勸農局所管の

1千町歩が那須開墾社へ貸下げになるのを知り、その内の5百町歩を従兄弟の大山巖と共に譲り受け、当初共同で開墾事業に取り組みましたが、後に250町歩ずつ分割して加治屋開墾（西郷農場）と大山農場を創設。西郷神社の社殿は珍しい石造りで、波の上に船の形で造られています。大山別邸は栃木県が買い取り、現在那須拓陽高校実習農場内にあります。

佐々木高行は工部卿・侯爵、後開墾社の株主となり、129町歩の佐々木農場を創設、開墾地内に別邸を建て時折農場に来ていました。烏が森に建つ印南文作顕彰碑の碑文の撰書者です。書は金井之恭。

品川弥二郎は大輔・子爵、那須開墾社に対して終始変わらぬ愛着を持ち、飲用水路、那須疏水開墾に尽力。疏水施工の試験掘の資金も品川の口添えて調達されました。また不況のどん底のこの時、株主募集の紹介を買って出してくれました。明治18年特命全権公使としてドイツに駐在。後品川開墾を創設しました。

土方久元、内閣書記官長、伯爵。第1次伊藤内閣の農商務大臣、後宮内大臣を歴任。坂本龍馬らとも連係して薩長同盟の仲介に尽力、馬関における木戸孝允と西郷隆盛の会談を斡旋。吉井友実、正四位、宮内次官、伯爵、後那須開墾社の有力株主となりました。所有地内と塩原に別邸を持ち、帰路には開墾社に必ず寄り、開墾社員とも交流が深かったと言われています。明治維新には西郷隆盛、大久保利通とともに活躍。明治15年に日本鉄道株式会社社長となりました。矢板武さんは明治14年に日本鉄道株式会社理事に就任して栃木県内の鉄道事業に貢献していますから、吉井さんとはそれなりの関係があったと思われます。ちなみに、JR日光駅舎は東京駅舎よりもわずかに早く建てられています。

岩崎久弥、弥太郎の長男、三菱三代社長。長崎造船所の近代化や丸の内周辺地区の開発、小岩井牧場、東南アジアでの農場経営等農政事業や製紙業の創業に関わるなど事業の拡大を図っています。（以下次号へ）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園

理事長・園長 福本光夫

発表会にはお忙しいところ来園下さり感謝します。年少組から年長組までの発表会の該当集団で欠席がなかったこと、みんな一緒に準備してみんな一緒に演じることが出来て、とてもうれしく思いました。それぞれの成長の一コマを垣間見ることが出来ました。年長組発表会の最終日、子どもたちを見ていただいている宮城教育大学名誉教授長谷川茂先生の見学もあり、

「安心して小学校に送り出せます。心配はいりません。卒園おめでとう。入学おめでとう」というようなことばを保護者の皆様にいただきました。月一回来園の長谷川先生は今日まで、私たち教師はあと一ヶ月しか年長児と一緒にいられません。親も同じです。成長するにつれ子ども領分が大きくなり、親が入り込める部分はなくなります。親離れ・子離れということです。キリスト者でもある先生のことばには、いつか別れの時が来ますが、神様はずっと子どもたちと共におられます。だからこそ、子どもたちの未来には希望があり、私たちは安心して卒園させることが出来るのだと言っているように感じました。

2月10日に東京で行われました第2回「すべての子どもが日本の子どもとして大切に守られるために」という研修会に参加しました。「子ども・子育て施策・社会的養護施策・しょうがい児施策の垣根を越えて、妊娠期からの包括的支援と青年期までの期間連携・子ども家庭福祉のあるべき姿を考える」というサブタイトルで、子育て、里親、しょうがい児、ネウボラ視察の視点からのパネルシンポジウムがありました。先進的な考え方の団体で包括的といいながら教育の視点からのパネルがおらず、まだまだ、福祉と教育は別れていると感じました。

さて、今回の研修主目的は、フィンランドのネウボラ（助言）制度の専門家吉備国際大学教授高橋睦子さんの「子どもと子育て家庭を包み込む『地域の実家』を目指して～フィンランドのネウボラから学ぶ～」という講演でした。目標はタイトル通りなのですが、具体的に日本に置き換える訳にはいかない難しさはあります。三重県名張市、世田谷区、浦安市などの取り組み中です。現在、日本の子どもを取り巻く状況としては、自然環境や地域社会の消滅化、家族の多様化（核家族、ひとり親家庭）、子育て期の女性の就労増加、経済的格差等がいわれており、子どもや親のおかれている環境が多様化されています。本園は特に2000年度から「トトロ・プロジェクト」で、子ども子育ての切れ目無い支援を行ってきていますが、妊娠中から2歳までの子育て支援の必要性を特に感じています。というのも、子どもの人生にとって、妊娠中から小学校に行くまでの期間の大切さが、脳科学的にも、縦断的な調査でもわかってきているからです。

高橋睦子さんによると、フィンランドでは、「出産・子どもネウボラ」として、利用者中心切れ目のない親や家族全体への支援が大切にされています。具体的には、妊娠中に保健師または助産師による定期健診・相談が出産まで約10回、出産後10日までに自宅訪問1回、5～12週にフォローアップ健診を1回。医師

の定期健診は妊娠中2回、出産後5～12週で1回。保健師は利用者目線で対応し、ネウボラおばさんと呼ばれ、信頼されている。利用率は98パーセントで当たり前になっているとのこと。

ネウボラは、「妊娠初期から就学前にかけとの時期のどこかで、どの家庭にもなんらかの問題や躓きが起こるという想定のもとで、継続的にモニターします」ということで、一次予防の重要性を大切にしています。

「日本では『困ったら来て下さい』という客待ちで、困り果ててから、『実は...』という事後対応で重篤化しやすい」と例を挙げていました。また、日本は低出生体重児出生率が10パーセント(フィンランド4パーセント)と「妊娠期の生活の質」についても言及されていました。私たちも、未来と希望溢れた全ての子どもたちと子育て家庭を中心に考え、何らかの施策自由実をする時期ではないかと考えます。子どもは「タカラモノ」。子育ては自己責任ではないと考えます。

(西那須野幼稚園「しらゆり」2018.2.23号)

カンボジア・ラオス歯磨きツアー

村田 榮・紀美子

2月11日(日)～18日(日)の日程で“カンボジア・ラオス歯ブラシツアー”が実施されました。私たち夫婦も1年半ぶりに参加しました。参加者は、実施時期もありユースリーダーの参加がなく、姫路グローバルワイズメンズクラブの英次期会長(ツアーの団長・歯科医)、三宅会長、竹居ウィメン、元メンバー東(歯科医)と私たち2名の6名でした。日程がちょうど旧正月にあたるため、出国の手続きに時間がかかること等を踏まえて、前日に全員が関西空港に集合し、2月10日が誕生日の東さんの祝会も兼ねて、全員でツアーの無事と良き成果が上げることができるよう祈りを込めて食事会をしました。

出発の手続きは予測通り大変な混雑でした。飛行機は予定通り関西空港を出発(午前10時30分)、ホーチミンを経由しプノンペン(カンボジアの首都)についたのが現地時間午後5時(日本時間7時)でした。現地で通訳とすべての行程の手配をしてくださるチョウリーさんご夫妻(25年間このツアーの現地ツアーコンダクターというよりも友人)のお迎えを受けました。ホテルに入る前に夕食を姫路YMCA日本語学校の卒業生であり通訳してくれる、通称クーちゃんご一家の歓待を受けました。ホテルは、プノンペン東横インでした。明日からの活動を考え早や目に休んだ。12日・13日も午前6時30分朝食。7時30分ホテルを出発。3名のカンボジアYMCAの3名のユース

リーダーがお手伝いに加わってくたり、2校共約1,000名の児童がいた小学校では、今までやっていた検診はやめて、先生へのレクチャーをし、そのあと各教室で先生の協力のもとに染だしと歯磨き指導を行いました。13日の午後からは、タケオ州の教育関係者を含めて小学校の先生とともに25年間やってきた歯ブラシ指導についての感謝会を開催しました。25年間続いてきたこの活動は、英・東両歯科医の大きな働きと、三宅・竹居両ワイズメンの支えがあって今まで続いてきました。特にここ7年ほどは、姫路YMCAの活動でなく英歯科医が主催するツアーであったことを考えると特にそう思います。カンボジアでの小学校選びから宿の手配・通訳として活躍をいただいたチョウリーさんには大感謝です。14日は、ラオスへ向かう飛行機の時間まで、ホテルから近い王宮とその周りの散策をしました。もう一人の日本語学校卒業生通称サブちゃんは、別の通訳の仕事のため参加できず、プノンペン空港にお送りに来てくれました。

ビエンチャン(ラオスの首都)空港には、これから2日間お世話になる後藤ご夫妻と松本ご夫妻が迎えに来て下っていました。2日間の間に3校の小学校に行き、検診と歯ブラシ指導を行いました。この2日間は、JICAの4名の隊員がサポートをしてくださいました。ラオスの小学校に行くようになったきっかけは、英ワイズと後藤さんの出会いがあったことです。後藤さんは姫路の出身でもあります。訪問した小学生の歯は、全体として良好な状況になってきていると感じました。子どもたちの笑顔は清々しく昔と変わりません。カンボジア、ラオス共に発展が著しく、道も大変よくなりスムーズに移動できるようになっていました。

3月31日(土)は、姫路グローバルワイズ主催の「カンボジアツアー25周年記念会」が開催されます。

故松崎豊ワイズと故竹居亨ワイズ(ともに姫路ワイズ)の初期のワークキャンプ(今は大きなため池となり、現地の人たちの憩いの場)の働きを忘れることはできません。

YMCAだより

【YMCAピンクシャツデー 2月28日(水)】

ピンク色の服を着ていじめ反対をアピールする「ピンクシャツデー」が今年も全国のYMCAで行われました。この運動は2007年カナダで、ピンク色のシャツを着た少年がゲイだといじめられたことに抗議し、皆でピンクシャツを着たことから始まりました。

社会全体がいじめに対して「自分ごととして」向き合うこと、そして被害者と加害者以外の立場にいる人が傍観者にならないことが、いじめられている人を救

うことになると私たちは考えます。2月28日は各拠点でピンクに染まりました！

(以下写真は那須YMCAに繋がる子どもたち)



【YMCAスプリングプログラム募集】



仲間と喜び・感動する春！

①シュプールスキーキャンプ

2018/3/26(月)～29(木) 3泊4日

【対象/定員】年長児～中3/30名

【場所】菅平高原スノーリゾート

【参加費】49,140円

②わくわくスキーキャンプ

2018/3/26(月)～27(火) 1泊2日

【対象/定員】年中児～小4/20名

【場所】菅平高原スノーリゾート

【参加費】26,460円

※①②那須YMCAで集合解散可。別途リフト券代、レンタル品有料。

③春っこ3Days

2018/3/27(火)～29(木) 日帰り3日間

【対象/定員】年少～年長児/20名小1～小6/20名

【活動内容】

3/27 都市公園を探検だ！(みかも山公園)

3/28 いっぱい食べよういちご狩り(出会いの森いちご園)

3/29 好きな動物はいるかな？(東武動物公園)

【参加費】15,440円

④4Days チョイス

【対象/定員】年少～年長児/20名小1～小6/20名

【活動内容】

4/3 レッツ！野外炊飯！(鹿沼自然体験交流センター)

4/4 レッツ！アドベンチャー(出流原ふれあいの森)

4/5 電車でGO！のりものマスター！(鉄道博物館)

4/6 チャレンジ！オリジナル弓矢づくり！(茂木町)

【参加費】各6,480円

※③④集合解散は宇都宮YMCAとなります

【とちぎYMCA・那須YMCAの3月・4月上旬の予定】

・3/3(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園(凧揚げ)

・3/4(日) Yキッズ@上野動物園

・3/5(月)～7(水) 北関東YMCAスキーリーダートレーニング

(2名のスタッフと4名のリーダーが参加)

・3/10(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園(凧揚げ)

・3/11(日) 希望の凧揚げ@宇都宮・足利会場
木を植える音楽界@トライ東

・3/14(水) YMCAホワイトデー杯3on3大会

・3/17(土) 西那須野幼稚園卒園式出席

・3/18(日) 春スキーキャンプ打合せ会@宇都宮YMCA

・3/21(祝水) とちぎYMCA杯エンジョイドッジボール大会

・3/23(金) YMCAリーダー年次報告会

・3/26(月) スプリングプログラムスタート(合計4本)

・4/2(月) 就業礼拝@宇都宮YMCA

・4/2(月)～4/4(水) 新入職員研修@宇都宮YMCA・トライ東

・4/7(土) とちぎYMCA職員歓送迎会@宇都宮YMCA

ユースリーダーのつぶやきコーナー

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

1. 羽染 未来(えっぐ)
2. 国際医療福祉大学・看護学科1年
3. 福島県
4. 子どもが好きというのがボランティアに入った理由で



す。一緒にキャンプやイチゴ狩りができるということに特に惹かれました。

5. 初めての活動で行った焼きマシュマロです。美味しそうに食べながら笑顔を向けてくれて、私自身も嬉しく感じました。

6. 看護師

7. たくさんの活動に参加したいと思っています。よろしくお祈りします！